

第10回四国オープンイノベーションワークショップ～ウェルビーイング～
「心豊かに安心・安全に暮らせる持続可能な社会の実現に向けて」ポスターセッション一覧

ポスター番号	機関名	部署・役職名	ポスター発表者氏名	ポスター発表題目
1	徳島大学	大学院社会産業理工学部 生物資源産業学域食料科学分野・教授	榎元 廣文	質量分析イメージングの導入による食料科学分野の新展開
2		大学院医歯薬学研究所 医科学部門社会医学系予防医学分野・助教	渡邊 毅	SNCウェアラブルデバイスを使った疾患の予防・早期発見ツール
3	鳴門教育大学	特別支援教育コース・准教授	高原 光恵	ともに絵本を楽しむ：視覚・聴覚・触覚を活用した取り組み
4	香川大学	農学部・助教	富吉 啓太	赤色レンコン‘友弘’の特性と根莖着色形質の遺伝性
5		創造工学部 造形・メディアデザインコース・教授	大場 晴夫	ホスピタルアート空色ポスト/新屋島水族館飼育下イルカの環境エンリッチメントにおける遊具デザインの考案・制作
6		創造工学部 機械システムコース・教授	寺尾 京平	生体を空間分画するブレードアレイデバイス
7			文部科学省マテリアル先端リサーチインフラ (ARIM) 香川大学 高度なデバイス機能マテリアル	
8		創造工学部 機械システムコース・教授	高尾 英邦	AI協働型ナノ触覚センシングシステム 指先の感覚を超越する触覚センシングの世界へようこそ
9		創造工学部 機械システムコース・准教授	井上 恒	歩行中の生体内力推定値の妥当性向上と簡易計測デバイスの開発
10	愛媛大学	食品健康機能研究センター・副センター長/准教授	西 甲介	抗アレルギー効果/骨粗鬆症予防効果を有する機能性食品素材
11				愛媛大学食品健康機能研究センターについて
12	高知大学	医学部 生化学講座・教授	加部 泰明	エクソソーム絶対計測システム開発とがん特異的血中エクソソームの検出
13		医学部 神経精神科学講座・公認心理師	茶谷 佳宏	特発性正常圧水頭症患者におけるiPhoneアプリを用いた歩行評価及びシャント術効果予測の有用性
14		農林海洋科学部・特任助教	坂野 新太	スマート畜産のための「見える化」技術の研究開発-医農工連携による未来の畜産
15	高知工科大学	総合研究所・特任教授	池上 浩	光・量子を活用した産学官共創社会実装拠点の紹介 ～高ピーム品質CO2レーザームスによる切開特性の向上～
16	徳島文理大学	理工学部 機械創造工学科・教授	天野 久徳	消防防災ロボットの研究開発
17		理工学部 電子情報工学科・教授	山本 由和	テキストアナリティクス-高次元データの次元圧縮によるアンケートデータと大規模ツイートデータの分析-
18	徳島県立工業技術センター	食品・応用生物担当・研究係長	池田 絵梨	阿波晩茶に含まれるポリフェノールに関する研究
19		生活科学担当・主任	麻植 雄樹	車載用スピーカの振動板の音質評価に関する研究
20	香川県産業技術センター	材料技術部門・主席研究員	白川 寛	キウイフルーツ向け花粉収集具の開発
21		食品研究所・主任研究員	松岡 博美	安全性・機能性の科学的根拠に基づいた機能性食品の開発支援
22	愛媛県産業技術研究所	食品産業技術センター・室長	藤田 雅彦	柑橘NFのブランド化及び機能性作用機序の解明
23				機能性表示食品のワンストップ支援
24	高知県工業技術センター	資源環境課・主任研究員	鈴木 大進	ハマアザミ (Cirsium maritimum Makino) の抗アレルギー活性とその活性成分について
25	産業技術総合研究所	健康医工学研究部門 口腔フレイル研究グループ・研究グループ長	堀江 祐範	乳酸菌の胃酸耐性を向上させるこんにゃく
26		健康医工学研究部門 口腔フレイル研究グループ・主任研究員	佐藤 知哉	魚類体表を模倣し実現した吸湿性・防汚性・自己修復性・抗菌性表面
27		健康医工学研究部門 バイオセンシング研究グループ・上級主任研究員 (副研究部門長)	瀧脇 雄介 (山村 昌平)	スマホで未病リスク因子を高精度に多検査！高度な医療検査をスマートELISAで一気に解決
28		健康医工学研究部門 細胞機能解析研究グループ・研究グループ長	中島 芳浩	多色リアルタイム発光測定による毒性発現時の細胞ストレス応答の解析
29		健康医工学研究部門 運動生理学・バイオメカニクス研究グループ・研究グループ長	藤本 雅大	健康リスクの早期発見と介護予防を目指して
30		健康医工学研究部門 運動生理学・バイオメカニクス研究グループ・研究員	稲井 卓真	膝サポーターが歩行を“整える”ことを実証
31	健康医工学研究部門 細胞ハンドリング・診断技術研究グループ・主任研究員	橋本 宗明	シャーガス病治療薬開発に資するハイスループットなオートファジー検出法の開発	